



FIWA®マンスリー・セミナー講演より 終のデザインを4つのマトリクスで考える

講演： 桑瀬 登起子氏
レポーター： 赤堀 薫里

本日のテーマである『相続の前に考えること』が、たくさんあるのではないかと、後見の仕事をして非常に感じました。問題提起として、どうすれば主体的に自分事として自分の終のデザインができるのかということが今日のお話のポイントになってきます。

終の場面で、お金は二つに分けて考えた方がいいのではないのでしょうか。それらは日々の生活のお金、まとまったお金です。まとまったお金は住まい費、自宅も含みます。日々の生活費は、健康関連と非常に密接に関係してきます。お金はこれだけあるとわかっている、だんだん自分で支払えなくなった時に、後見で誰かにお願いする、家族で信託をする、信託というモノを家族の中で作って、受託者に代わりにやってもらうということもできます。まとまったお金も、後見制度、家族で信託もやってもらえます。住まいの話も含めてどういうことがあるのかをなるべく早めに考えておいていただくことが必要です。



入院になっても、今は高額医療費の制度もあります。そんなに医療費にお金はかからないでしょう。むしろ施設に入るお金をどうするのか。住み替え。そういったことを考えなくてはいけない。認知症に関しては、お金の管理が難しくなったとき、最後、誰が管理してくれるのかということが非常に問題になってくるパターンが多い。法定後見制度を利用できますが、割と使いづらい。医療の決定権がないのです。

結局、親族がひっぱり出されてしまう。そうすると、家族で、ある程度の金額を信託しておくほうがいいのかもしれませんが、また、事前準備として法定後見に対して、任意後見制度もあります。これは、自分がはっきりしている間に、自分がこの人に託したいと思う後見候補者と契約をします。それは公正証書にして公証役場でやるので中身ははっきりしています。しかし、結局こちらも家族で柔軟に運用するということができないということと、任意後見制度は、実際に認知症になって後見契約を家庭裁判所にお問い合わせをしてやっと発行してもらえるのです。





FIWA®通信「インベストラ이프」

すると次は、家庭裁判所が任命した後見監督人が付きます。家庭裁判所に関わられてしまう。不正が生じにくいという良い面もあります。でもかなり面倒でもあります。それだったらと、家族で信託が少し流行りだしています。

ここで一番大事なことは、『まだ大丈夫』と言っているうちに、いろいろなことが不可能になり、手遅れ状態になる方が非常に多いことです。こういう話は繰り返しておくということが大事だと思います。相談相手は、専門職後見人であれば弁護士、司法書士、社会福祉士の三者でいいのではないのでしょうか。また、お金の話ですからFPさんに相談して、しかるべき人につないでもらう。税理士さんも悪くはないですが、後見制度を積極的にやっているわけではありません。しかし残すお金では関係します。税理士さんをお願いするということもあるのかなと思います。

より良い終のデザインのために、まず生きているときのカラダ(非資産性のこと)とおカネ(資産性のもの)。死んだときのカラダとおカネ。この四つのマトリクス全体を俯瞰してみる。そして最後はココロに聞くという意味でこのマトリクスの真ん中にココロがおいてあります。本人に全体を見てもら

頭が不安でいっぱいな方へ

⇒4つのマトリクスで、整理して考えて、やることの優先順位をつけよう！

	カラダ (非資産性のこと)	おカネ (資産性のもの)
生きているとき	健康・医療 (A) 住居・アクティビティ	使う お金 (B)
死んだとき	(D) 墓・葬儀	(C) 残す お金



はいよっ！



空、飛べるん？！

210516@kuwaseto-kiko

木ばっか見てないで、空から森全体をみるのよ！



い確認をしてもらうと同時に、アドバイスをする方にも確認、意識が必要です。とにかく遺言、墓、葬儀ということばかり耳によく聞こえてくるので、高齢者の頭の中もそうなっています。そうではなくて、実際生きている時が大事だという話をさせていただくことが四つのマトリクスの正しい使い方であり、一つの考え方のヒントになるのではないのでしょうか。

非常に難しいのは、人によって検討すべき点が異なることです。自分で考えるには難しいので相談することになります。ただ誰に相談相手になってもらえるかで異なってきます。専門家を選択するにあたって、相性はとても大事です。誠実な人。本人や家族のことをよく理解してくれる人。どんなに知識があっても、どんなにすごい家族信託ができますといっても、本人が望んでいることを実現してくれる人でないとあまり意味がありません。誠実な人。本人や家族のことをよく理解してくれる人。どんなに知識があっても、どんなにすごい家族信託ができますといっても、本人が望んでいることを実現してくれる人でないとあまり意味がありません。



FIWA®通信「インベストラ이프」

結局自分のことは、自分の心に聞いて考えましょう。その時にオールラウンドの専門家はいません。アドバイスをすることは知識のレベルを上げることではありません。パーソナルトレーニング的に、横で『頑張れ』とか『落ちそうだよ』と言ってくれる専門家がいいのではないのかと思います。知識が豊富よりも、気配りが豊富ということを心がけて専門家を探す。また頼れるキーパーソンを探すことが大事ではないか思います。

これだけいろいろなことを話して、いろいろな事をしなさいと言っても、準備に100%はないという割り切りも必要です。「なるようになるさ」と思っていただけの方が本人も楽ですし、周りの相続人も楽なのではないかと感じます。

講演では、人生100年時代を数字で確認しながら、四つのマトリクスの詳しい説明と、それぞれの課題と対策を具体的にわかりやすく解説いただきました。